

**1. 略歴**

- 1983年3月 東京大学文学部国史学専修課程卒業  
1985年3月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程国史学専門課程修了  
1987年3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程国史学専門課程中退  
1987年4月 山梨大学教育学部講師（歴史学）  
1990年9月 山梨大学教育学部助教授（歴史学）  
1994年11月 博士（文学）  
1997年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授  
2002年10月 スイス、ジュネーブ大学招聘教授（～2003年2月）  
2010年7月 東京大学大学院人文社会系研究科教授

**2. 主な研究活動****a 専門分野**

日本古代史

**b 研究課題**

古代天皇制、日唐律令制比較研究、摂関期国家の研究

**c 概要と自己評価**

日本古代の律令制を東アジア世界の中で位置付けることを目的とし、それにともない古代天皇制の解明、敦煌吐魯番文書の研究、摂関政治期の国制の解明を行っている。科研費をうけて長年続けている天聖令にもとづく律令制の比較研究については2019年の史学会大会でシンポジウム「日本律令制と中国文明」を企画し、その成果に基づいた論文集『日本古代律令制と中国文明』を出版したが、新型コロナウイルスの蔓延によって研究調査活動は大きな制約を受けている。また史学会理事長として、史学会の活動が順調に行われるように努力しているが、史学会大会は2020年、2021年ともオンライン開催となった。

**d 主要業績****(1) 著書**

編著、大津透編、『日本古代律令制と中国文明』、山川出版社、2020.11

**(2) 論文**

大津透、『令集解』研究の回顧と展望」、小口雅史編『古代東アジア史料論』、同成社、52-70頁、2020.6

大津透、「日唐古文書学比較研究の一視点」、大津透編『日本古代律令制と中国文明』、山川出版社、193-209頁、2020.11

大津透、「二〇二〇年の歴史学界 総説」、『史学雑誌』、130編5号、1-5頁、2021.5

大津透、安洪賛訳、「略論唐令復原与『天聖令』一以『賦役令』为中心」、周東平・朱騰編『法律史訳評』、中西書局（上海）、176-201頁、2021.11

**(3) 解説**

大津透、『日本書紀』と史実とのあいだ」、井上光貞監訳『日本書紀』上・下、中公文庫、下527-533頁、2020.6

**(4) 学会発表**

国内、大津透、「藤原道長の史的意義」、東方学会令和三年度秋季学術大会、オンライン、2021.11.7

**(5) 座談会**

笹山晴生、「国史学界の今昔 戦後歴史学と古代史研究の歩み」（上）（下）、『日本歴史』870号、55-67頁、871号、41-57頁、2020.11

**3. 主な社会活動****(1) 学会**

国内、日本歴史学会、評議員、2002.7～

国内、東方学会、常務理事、2019.6～、国際東方学者会議運営委員

国内、公益財団法人史学会、理事・理事長、2020.6～